

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	秋 田 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	増田町立増田中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	1 0	2 2
生徒数	7 9	7 8	8 9	6	2 5 2	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力の向上を目指した個が生きる授業の創造 - 学力の評価を生かした指導の工夫と改善 -
---

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1 年，2 年，3 年 国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 （確かな学力は全教育活動を通して取り組むべきと考えているため）
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指した個が生きる授業の創造 - 個に応じた指導方法・指導体制の工夫と改善 -</p> <p>研究の見通し（仮説） 生徒や学校，地域の実態に合った教育課程を編成し，個に応じた指導方法を工夫するとともに，個に応じるための 指導体制を充実することにより，基礎学力が定着し，確かな学力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年生は3 0 人以下の学級編制とし，数学と英語を全時間1 C 2 Tで実施した。</li> <li>・ 生徒の興味・関心，習熟度に応じた指導をするとともに，少人数での授業を可能にするため，2・3 年生において数学と英語を組み合わせたT T（3 C 5 T）を全時間で実施してきた。</li> <li>・ 増田中学校版評価規準表の作成をした。評価規準に準拠した，到達度を判定するための多様な評価問題・シートの作成に着手した。</li> <li>・ 増田小学校と校内研究会に参加しあい，相互理解を深めた。中学校から理科担当教師が天体観察会の講師として出向くなどの交流も行った。</li> </ul>
--------	--

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指した個が生きる授業の創造 - 学力の評価を生かした指導の工夫と改善 -</p> <p>研究の見通し（仮説）</p>
--------	---

<p>平成15年度</p>	<p>生徒や学校，地域の実態に合った教育課程を編成し，個に応じた指導方法を工夫するとともに，個に応じるための指導体制を充実することにより，基礎学力が定着し，確かな学力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度まで通年で固定して運用していた時間割であったが，選択教科などにおいて柔軟な運営が可能になるよう，4期制時間割を導入する。</li> <li>・1年生は昨年度同様に30人以下の学級編制とし，数学と英語を全時間1C2Tで実施する。</li> <li>・生徒の意欲・習熟度に応じながら少人数学習を可能にするため，2・3年生の数学と英語でTTを実施している。数学，英語での習熟度別学習を取り入れ，1C2Tまたは2C3Tの形式で授業を実施する。</li> <li>・全教科の評価規準表を作成した。それを基にした評価カード（学習の手引き）を活用し，生徒の学習状況を把握しながら指導に生かす。</li> <li>・増田小学校と校内研究会に参加し合い，相互理解を深めた。</li> <li>・11月14日に自主公開研究会を開催し，近隣の学校にこれまでの研究を報告するとともに分科会などで次年度の研究に向けての課題をつかむ。</li> </ul>
---------------	---

<p>平成16年度</p>	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指した個が生きる授業の創造（検討中）</p> <p>- 評価を生かした指導の工夫と改善（検討中） -</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>生徒や学校，地域の実態に合った教育課程を編成し，個に応じた指導方法を工夫するとともに，個に応じるための指導体制を充実することにより，基礎学力が定着し，確かな学力を向上させることができるであろう。（検討中）</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4期制時間割を継続し，必修教科・選択教科・総合的な学習の時間などを柔軟に運用できるようにする。</li> <li>・英語・数学において少人数・習熟度別学習を継続する。</li> <li>・もっと取り組んでみたい，充実している，興味をそそられる，と生徒が感じ，主体的な学びが可能になる教材の開発と，指導方法の工夫・改善を行う。</li> <li>・集団での学習のよさを確認しながら授業を展開し，学び合い・練り合いの場を保障する学習活動を充実させる。</li> <li>・評価規準表の日常的な見直し・検討を継続して行い，授業改善に生かすとともに生徒自身が自己の成長を確認しながら学習できる評価の工夫を行う。</li> <li>・増田小学校と校内研究会に参加し合い，相互理解を深める。また，小学校・中学校相互に連携できる教科・単元・題材の洗い出しを行い，実践に結び付けていきたい。</li> <li>・授業で培った学力をしっかりと定着させるための教材等の工夫を行う。</li> </ul>
---------------	--

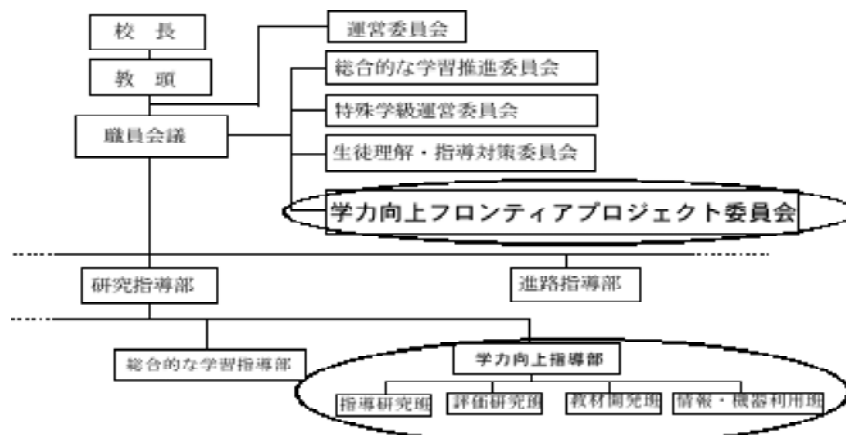
### (3)研究推進体制

#### 学力向上フロンティアプロジェクト委員会

本校の研究への取り組みの方針や枠組みを提案する。

委員・・・ 校長 教頭 教務主任 研究主任 教科主任（国・社・数・理・英）

学力向上指導部・・・4つの研究班



指導研究班 評価研究班 教材開発班 情報・機器利用班に全職員が所属する。

各班の観点から、具体的方策の計画，取りまとめを行う。多様な考えを出し合うために、特定教科に偏らない班員構成にした。

- ・指導研究班・・・学習のてびきの計画，T Tなどの指導方法の工夫改善，増田小学校との連携の推進
- ・評価研究班・・・評価システムの構築，評価問題・シートの提案と取りまとめ
- ・教材開発班・・・基礎学力テストの様式の提案・計画
- ・情報・機器利用班・・・学習だよりの計画，ホームページを利用した成果の普及

平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1 研究成果

##### 教師の変容

「確かな学力」の育成のためには「意欲の向上」が肝要ととらえるようになり，授業だけでなく教育活動全体で意欲の向上を目指すようになった。

「確かな学力」とは，学力が授業の中で，定着を図る復習の場で，特別活動などの中で，そして家庭生活の中などで「生きて働く」状態になったものであると考える。そのような「確かな学力」を育成し，発揮させるための大きな支えとなるものが「意欲の向上」である，ととらえている。

問題を正確に解く力，文章を正確に読みとる力などはもちろん重要であるが，意欲の向上があつて初めて主体的な学びがあり，将来的にも有効な「生きて働く」「確かな学力」に昇華するものととらえている。そこで，授業のみならず，学校内のすべての活動，校内環境の面で生徒を賞揚し，意欲を向上させる取り組みに力を入れるようになった。

評価を大きく3分類してとらえたため，評価を授業改善・生徒の意欲向上に役立てやすくなった。

評価を「評価・評定の資料を得るための，教師の活動」，「評価規準に照らしながら指導目標が実現しているかを見極め，次の指導に生かすための教師と生徒の相互で行う活動」，「他の作品や演技，解法などに触れることにより，よい点に気付き，自らを高めようとする生徒自身活動」と3つに分類してとらえた。これらの分類を意識することにより，日常的に行っている評価活動が整理され，評価を授業に生かしながら改善する視点が明確になってきた。

評価規準を「作成する」段階から「どう活用するか」の段階へ移行した。

昨年度作成した各教科の評価規準表の改善を目指し、生徒の実態により即した評価規準表の作成を行った。さらに、1時間の中のねらいを精選し、ねらいがより焦点化された授業になるよう、指導と評価の一体化を意識しながら日常的に見直しを図っている。

その際、評価規準を基にした「評価シート」などを作成し、生徒が見通しをもちながら単元の学習を進めることができるよう工夫し、生徒が記入した感想・反省から授業の進め方の改善点を見いだす資料にもなるようにした。いったん作成した評価規準表を基礎として、より効果のある授業が展開できるように「活用する」評価規準表になりつつある。

学び合い、練り合う場面を授業の中に意図的に設定するようになった。

授業は個別ではなく、学級などの集団で行われる。個と集団のかかわりの中で生徒の学習の視点や目標を明確にするための支援をすること、集団の中で生徒の存在を認めることが重要である。豊かな人間関係の中で確かめ合い、学び合い、考えを練り合うことで自分のよさ、友達によさに気づき、認め合い、自らの学びを深めることができる。

学び合い、練り合い、認め合う中で意欲が高まる。教師が生徒の作品紹介の場をつくり、賞揚を心がけることが「生徒自身の評価活動」を支え「確かな学力」を育成することにつながると思え、意図的な場面設定に心がけるようになった。

### 生徒の変容

学校内のすべての活動、さらに校内環境の面でも生徒を賞揚し意欲を向上させる取り組みに力を入れた結果、「学校がすき」と思う生徒が増加した。

「学校がすき」と回答した生徒は学習に関する質問項目にも肯定的な回答を寄せている傾向が見られる。学校が楽しいととらえることのできる生徒を増加させることが学力の向上と関連があると考えられる。

質問項目	実施時期・学年 回 答	16年3月実施			15年7月実施		
		1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)	1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)
学校がすき	強くそう思う	22	13	18	22	9	9
	そう思う	55	43	48	49	45	40
	そう思わない	10	23	18	12	23	24
	全くそう思わない	5	5	6	3	6	7
	わからない・どちらでもない	8	11	11	15	17	19

(学習意欲に関するアンケート 結果より)

指導方法の工夫・改善に努めた結果、「学校の授業がよくわかる」と回答する生徒が増加している。

特に3年生の増加が著しい。各学年とも年度末を迎え、より高度な内容の学習に取り組んでいる時期であるが、意欲を高めるとともに学力の定着を図る工夫を続けてきたことの現れであると考えられる。ただし、1、2年生においては2局化している傾向もあるので、1、2年生においては指導方法の工夫・改善に一層力を入れていきたいと考えている。

質問項目	実施時期・学年 回 答	16年3月実施			15年7月実施		
		1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)	1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)
学校の勉強が よくわかる	強くそう思う	16	7	7	8	3	3
	そう思う	56	47	62	63	47	48
	そう思わない	16	35	17	23	28	27
	全くそう思わない	8	9	4	1	5	5
	わからない・どちらでもない	5	4	11	5	17	17

(学習意欲に関するアンケート 結果より)

自力で解決しようとする探究心が育ちつつある。

「自力で解決したい」という願いをもっている生徒は多く、3月の調査では特に2年生の伸びが著しい。自分で問題解決に挑戦してみようとする意欲が向上している結果ととらえることができる。

質問項目	実施時期・学年 回 答	16年3月実施			15年7月実施		
		1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)	1年生(%)	2年生(%)	3年生(%)
わからないことでも自分の力で答えを見つけられるように、勉強したい	強くそう思う	31	19	24	26	15	24
	そう思う	51	67	48	58	59	51
	そう思わない	13	9	20	9	15	13
	全くそう思わない	4	4	2	1	1	3
	わからない・どちらでもない	1	1	6	6	9	8

(学習意欲に関するアンケート 結果より)

## 2 今後の課題

意欲が向上したことによって「確かな学力」も向上していることを客観的にとらえる方法の模索  
前年度実施した学習状況調査と同じ問題を解かせて比較するなどして、学力の定着を確認するテストなどを実施する。合わせて、学習意欲に関する調査も行い、学習意欲と学力の定着の相関をとらえるようにしたい。

学力を確実に定着させる方法の工夫

評価を工夫したり教材を開発したりするなどして授業改善に努めてはいても、授業で培った学力を定着させる工夫が必要である。学習した教科だけでなく他の教科や場面にも学習事項を応用できるようになってほしいと願っている。そこで、学力を確実に定着させる方法を工夫・開発したいと考えている。

確かな学力が発現する授業の実践

これまで培ってきた「豊かな人間関係の中で作り上げていく主体的な学び」が見えるような1時間の授業をつくっていききたいと考えている。そのために生徒の変容をとらえる手だてをこうじたりや評価を授業に生かすための工夫をしたりしていきたい。

学力把握のための学校としての取り組み

1. 標準学力検査(CRTまたはNRT)を年1回実施する。

2. 校内基礎学力テストの継続する。

これまで取り組んできた校内基礎学力テストを継続して実施し、基礎学力の定着を診断する。

3. 学習意欲に関する調査を各学期に行う。

4. 英語検定、漢字検定などの公認検定の受検を奨励する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年11月14日(金) 増田町立増田中学校において自主公開研究会を開催  
全教科の授業の公開 県内・近隣市町村の教員など172名の参加

平成15年度 県南地区「確かな学力」向上推進協議会 ワークショップで発表

平成16年1月21日(水) 会場 秋田ふるさと村 ドーム劇場

平成16年度10月15日(金) 増田町立増田中学校において公開研究会開催予定

---

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	b14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 b10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	b少人数指導 その他	bT Tによる指導		
【研究教科】	b国語 b外国語 b保健体育	b社会 b音楽 その他	b数学 b美術	b理科 b技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		b有	無	